

つなぐ

Vol.78

2026.1月

鹿児島大学から国内留学し、小倉記念病院循環器内科で3年目を迎える末永智大（写真右）。研修医時代、心筋梗塞で緊急入院した患者がカテーテル治療によって劇的に回復し、元気に退院していく姿に心を動かされた。低侵襲で人を救う循環器内科に強く惹かれた原点である。なかでも進化が著しい弁膜症治療を深く学び、挑戦したいという想いから、日本の中でも症例数の多い当院への留学を決めた。

1年目は、慣れないハイボリュームセンターでの診療に苦労した。症例数の多さに加え、希少疾患も多く、初めて経験することの連続だったという。

現在は、大動脈弁・僧帽弁疾患を中心に治療適応の判断から、外科医と議論を重ねるハートチームカンファレンスまで、ストラクチャー領域を包括的に学んでいる。入職前は弁膜症治療や臨床研究の経験はなかったが、3年間で多くの症例を積み重ね、同世代の医師と支え合う中で、学びは確かな自信へとつながっている。

日常診療は忙しいが、医師数が多く当直は月2〜3回。夜間呼び出しもほとんどなく、学びとプライベートの両立ができていくという。北九州での生活も、そろそろ一区切りを迎える。ここで得た経験を次の場所へ、そして次の世代へとつないでいく。小倉記念病院は、これからも最先端を発信し、技術と想いを「つなぐ」場所であり続けたい。





第88回

小倉循環器内科セミナー

2026年 2月5日(木) 18:00~18:30開催



最近の循環器研究の進歩

座長 小倉記念病院 副病院長 安藤 献児

講師 京都大学大学院医学研究科 循環器内科学 教授 尾野 亘先生

参加方法



ZOOMによる
WEB参加のみとなります!

ZOOMの事前登録は不要ですが、
事前登録しておくことでリマインドメールが届きます。



PCの場合

小倉記念病院ホームページから①病院案内→②市民
公開講座・勉強会・研究会のご案内→③勉強会・研修会
→④zoomボタンをクリックで参加が可能になります。



スマホの場合

右記のQRコードを読み込んで
いただくと参加が可能になります。

